

最新ヘッドホン 音質テスト

2014年に発売されたヘッドホン、イヤホンから、audio-technica ATH-W1000Z、ATH-ESW9LTD、ATH-CKR9LTD、Westone から、W40、W50、W60を選んで比較試聴を行いました。ヘッドホンアンプは「HEGEL-Super」をWindows PCと組み合わせて使用しました。今回のヘッドホンの比較試聴では、愛用している密閉型の audio-technica ATH-W10LTD、カナル型の ATH-CK90PRO2 を基準機として使い、エネルギーバランスを指標とする「高音、中音、低音、躍動感、バランス」の5項目に、味わいを指標とする「音色感、広がり感、透明感、明瞭感、艶やかさ」の5項目を加えた合計10項目で比較しました。採点方法は、基準機をそれぞれの項目で10点とし、それよりも良い場合は10点以上、悪い場合は10点以下としています。ただし、人間による音の聞き分けは、心理状態（先入観）や好み、カナル型では耳殻とのフィッティングで音質がかなり左右されるため、一応の「目安」として捉えていただければ幸いです。

試聴したヘッドホン



WESTONE W40
市場価格 ￥45,000（税込）程度



WESTONE W50
市場価格 ￥75,000（税込）程度



WESTONE W60
市場価格 ￥106,000（税込）程度



audio-technica ATH-CK90PRO MK2
発売時価格 ￥25,000（税別）
（生産完了品）



audio-technica ATH-CKR9LTD
メーカー希望小売価格 ￥43,200
（税別）



audio-technica ATH-W10LTD
発売時価格 ￥50,000（税別）
（生産完了品）



audio-technica ATH-W1000Z
市場価格 ￥65,000（税別）程度

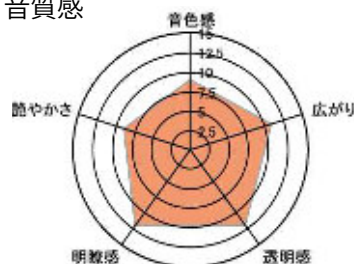


audio-technica ATH-ESW9LTD
市場価格 ￥40,000（税別）程度

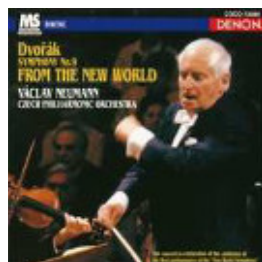
audio-technica ATH-W1000Z 音質テスト



音質感



パワー感



Neumann チェコフィル
“新世界 第2楽章”

ATH-W10LTD と比べると ATH-W1000Z の音は高音が強く、弦楽器の音が硬く聞こえます。ノイズも強調されて目立ちます。金管楽器はエネルギーバランスが少し高音に偏っています。中低域は出ているのですが、それよりも先に高音が目立って耳に入るので ATH-W10LTD に比べて音が少し神経質で細い印象があります。音の細やかさや色彩感はそのなりに出ています。



Grace Mahya Last Live at DUG “Root 66”

ウッドベースは唸りシンパには宙を舞います。楽器の音の分離感と空間の広がり、ATH-W10LTDを上回ります。拍手は少し高音よりで、パチパチが強く聞こえます。

ギターは少し奥まっています。トランペットの音は鮮烈ですが、唇のコントロール感がやや薄くなります。

演奏の一体感よりも、個々の楽器の音の主張が強いようです。



B'z Pleasure “ZERO”

イントロの低音の爆発感、は凄まじいものがあります。けれど、これは明らかに「やり過ぎ」で、ATH-W10LTD に比べると「ドン、シャリ」のバランスになっています。

それぞれの音を「ハッキリ」と聞き分けたい人には向きますが、「音楽の全体像」を見極めたい人には、ESW9LTD が適していると思います。

総評

ATH-W1000Zの音は「若者向き」です。低音は炸裂し、高音は耳を劈くほど明快です。それに比べると中音はやや薄く、エネルギーバランスは高音と低音の両端に偏っているように感じます。解像度/明瞭度はATH-W1000ZがATH-W10LTDを凌ぎますが、中音の芳醇さではATH-W10LTDがATH-W1000Zを上回ります。気になったのは、ATH-W10LTDのハウジングが密度の高い木の響きを持つのにに対し、ATH-W1000Zのハウジングがプラスチックのような響きを持つことです。ATH-W1000Zはケーブルなどの素材が高純度化され解像度や明瞭度など「直接音」に対する音質が強化されたのに対し、ハウジングの響きが「硬質」になったため、ATH-W10LTDのような中域の分厚さが薄れたのだと思います。ATH-W1000Zは、メタルロックなどが似合いそうな音作りです。



HEGEL SUPER

●USB デジタルヘッドフォンアンプ●24bit/96kHz対応●プラグ&プレイ ドライバー不要 (Mac&Windows)●PC からのノイズをシャットアウト●あらゆるヘッドフォンとのインピーダンスマッチング●切削アルミニウムシャーシ (ブラッシュ仕上げ)●入力: microUSB●出力: 3.5mm ミニジャック mini-jack (analog) optical mini-jack (digital)●USB デジタル入力: 24bit/96kHz●ノイズフロア: -140dB●出力インピーダンス: 1Ω以下●外形寸法: 16x41x82 (mm)

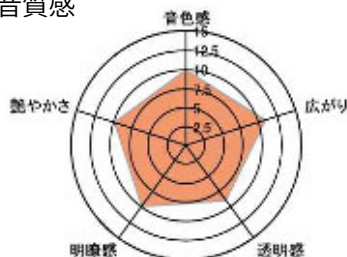
希望小売価格 ¥ 50,000

HEGEL-Super は、高級オーディオと高音質 USB 関連 DAC の発売で逸品館が高く評価する北欧ノルウェーの HEGEL 社が発売した小型 USB DAC 搭載ヘッドフォンアンプです。MicroUSB の入力端子を PC と USB ケーブルで接続して使用します。USB パスパワーで動作し、面倒な専用ドライバーのインストールなしに最大 24bit/96kHz の音楽ファイルをアナログ信号に変換します。この小型 DAC は彼らが標榜する、Natural Sound Defined (自然な形でレコーディングされた音楽を再現する) 思想に基づいて音作りがなされ、ダイナミックなレコーディングの全パートをオリジナル同様に生々のスタジオセッションに非常に近いものとされています。最小1Ω以下の出力インピーダンスを持つ HEGEL-Super はあらゆるヘッドホンに余裕を持ってドライブします。

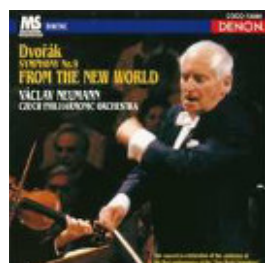
audio-technica ATH-ESW9LTD 音質テスト



音質感



パワー感



Neumann チェコフィル

“新世界 第2楽章”

ATH-ESW9LTD の音質バランスは、W10LTD に近く感じられます。中域の密度感や色彩の濃さでは、W10LTD に譲るものの高域の細やかさ、楽器の各々の音の特長は良く

出ています。

スピーカーでこの曲を聴くと「客席」で聞いている感じでリラックスできるのですが、ヘッドホンで聴くと「ステージ」で聞いているような感じになり、スピーカーほどはリラックスできません。

けれど、聞こえてくる音は明るく自然で、ヘッドホンの存在を感じさせず、またヘッドホン自体も軽く小さいので装着感も上々です。



Grace Mahya Last Live at DUG "Root66"

ATH-W1000Z に比べるとハウジングの強度が低いいためか、低音が彫らんで遅れます。けれどそれが逆に「空間」を演出し、ATH-W10LTD や ATH-W1000Z のように頭

の中で音が鳴っている感じが緩和されます。

Jazz はクラシックのようにホールの反射音が音楽表現に重要ではなく、楽器の直接音だけでも音楽が成り立ちます。そういう意味ではクラシックよりもヘッドホンでの音楽鑑賞に向いているのかもしれません。

さすがにスピーカーのように身体ごと持って行かれるほどの躍動感はありませんが、JAZZ が楽しく躍動しました。



B'z Pleasure "ZERO"

この曲もジムで運動しながら聞く時に使っている、「ATH-CK90PRO2」のバランスに近く、安心できます。何よりも音と音の間に「間」が出たのが素晴らしいと思います。

ATH-W1000Z は高性能すぎて、あらゆる音が一度に頭の中に流れ込みます。よく言えば HIFI ですが、悪く言えば「うるさく」聞こえてしまいます。このあたりは好みの差もあるのですが、ATH-ESW9LTD の適度な「もたつき感」が、実に具合良く音と音の間に「間」を生み、音楽が立体的に聞こえます。生演奏を聴いている雰囲気に近いのは、圧倒的に ATH-ESW9LTD です。

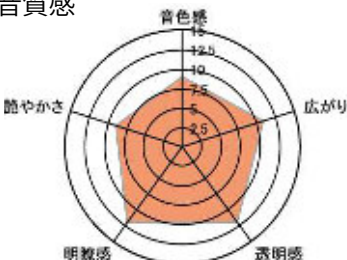
総評

ヘッドホンは耳のすぐ近くにユニットがあり、またスピーカーのようにセッティングやルームアコースティックに左右されないで、ヘッドホン自体の「音質/バランス」が非常に重要になります。ATH-ESW9LTD は、音と音の「間」の取り方が絶妙です。低音の立ち上がりが僅かに遅れ、収束も僅かに遅くなります。高音が早く、低音が少し遅いこのバランスは、私達が実際にコンサートで音楽を聞いているバランスにとても近く、音楽が自然に聞こえます。ヘッドホンの存在感が薄く、ヘッドホンを通して生演奏を聴いている感覚で音楽を聴けました。個人的には、好きな音です。

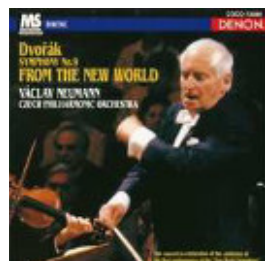
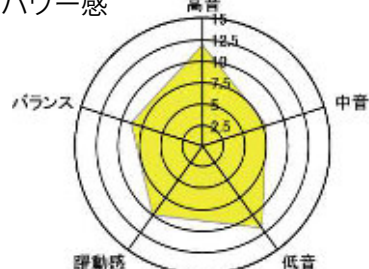
audio-technica ATH-CKR9LTD 音質テスト



音質感



パワー感



Neumann チェコフィル

“新世界 第2楽章”

ATH-CKR9LTD は、ATH-CK90PRO2 に比べ、音の広がりに優れています。高音の解像度、低音

の量感、帯域バランスも良好で、ATH-CK90PRO2 に比べてそれぞれの楽器の音がよりハッキリと聞き取れます。音のバランスが適切なのでその「解像度の高さ」が嫌みではなく、ヘッドホンの性能が上がったと実感できます。

少し大きく、重く、ケーブルのタッチノイズが過大なのは問題ですが、良い音のヘッドホンだと思います。



Grace Mahya Last Live at
DUG "Root 66"

低音は少し出すぎます。ウッドベースがすこしビリ付いて感じるほどです。

ボーカルの明瞭度はATH-CK90PRO2 よりも高

いですが、少し高音よりのエネルギーバランスでサシセンが荒れます。シンバルも高音が強く、耳障りです。

トランペットは明らかに高音過多で、うるさく感じました。

交響曲では目立ちませんでしたが、この曲では少しドンシャ

リに感じられました。



B'z Pleasure "ZERO"

ATH-CK9LTD の高音の切れ味と、低音の量感が、ROCK では生きてきます。

ギターとドラムはぐんぐん前に出ますが、ボーカルが少し奥まってしまいました。

器楽曲の Rock なら良いと思いますが、ボーカル曲ではもう少し中域が充実している方が、美味しい音になると思います。



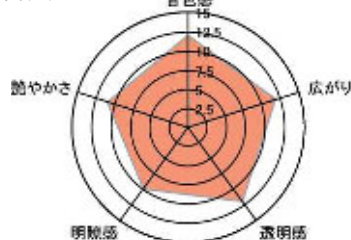
総評

ATH-CK9LTD の音質は ATH-CK90PRO2 に似ていますが、ATH-CK90PRO2 に比べると中域が少し薄く、ボーカルがやや痩せます。これは、ユニットが異なるためではなく、ハウジングが ATH-CK90PRO2 のプラスチックからアルミに変えられている影響のように思います。ATH-CK9LTD の音は引き締まっていますが、中域の響きがやや不足しているため、中音が痩せて奥まって聞こえます。ATH-CK90PRO2 の中域が分厚いのは、ハウジングの共振を利用して中低域の響きを増幅しているためではないでしょうかと思います。ただ、ヘッドホンは常に聴いているとそのバランスに耳が慣れるので、ATH-CK9LTD だけを聞き続けると、整ったバランスに聞こえるようになるかもしれません。

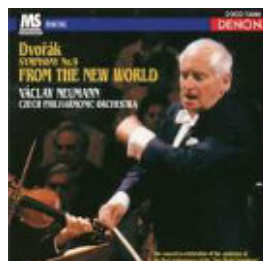
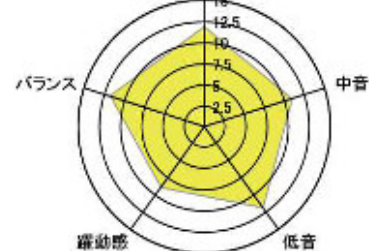
WESTONE W40 音質テスト



音質感



パワー感



Neumann チェコフィル
"新世界 第2楽章"

W40 は高音の抜けが良く、音の広がりも自然です。中音もスッキリと見通しがよいのですが、パワー感にはそれには負けていません。

会場のノイズは楽器の音から綺麗に分離し、ノイズが驚くほど自然です。クラリネットはリードの震える感じまで伝わるほどリアルに聞こえ、弦楽器の質感も生々しい。

今回テストした audio-technica のイヤホンに比べ、W40 は明らかに視界がクリアです。少し前にテストした NOBLE と比べると、繊細感や透明感はいずれも NOBLE が Westone を上回るかも知れませんが、自然な生々しさでは Westone が NOBLE を上回るように思います。生演奏を聴いている雰囲気

気がカナル型で味わえます。ATH-CK90PRO2 を上回るカナル型ヘッドホンにやっと出会えました！



Grace Mahya Last Live at
DUG "Root 66"

ATH-CK90PRO2 が大学生なら、Westone W40 は社会人。あらゆる音が上質で大人です。

特に高音の抜けが良く、シンバルが鋭くなるのに耳障りではありません。ドラマーが打つスティックがシンバルの「どこ」を「どのように打っているか」が聞き取れます。トランペットは「楽器の質」が違って聞こえます。良いトランペットを吹いているのがわかりますし、唇の動きに力加え身体を揺らしている音の変化まで聞き取れます。

ドラムは少し湿っていますが、音の変化は良く出ます。ベースは少し膨らみますが、問題ない範囲です。

プロっぽい雰囲気やレート 66 が鳴りました。



B'z Pleasure "ZERO"

イントロのキーボードの音色が鮮やかです。

ギターも伸びやかですが、芯が少し弱くドライブ感が不足気味、少し音が広がりすぎる感じがです。

ボーカルも少し奥まって聞こえました。繊細ですが、パワー感にはほどほどのようです。この曲に関しては、レンジ感では劣っても密度感で上回るATH-CK90PRO2 がより良くマッチしています。

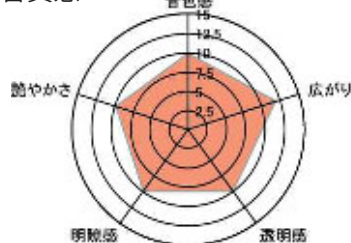
総評

Westone の W シリーズは、簡単にケーブルが交換できます。W40 (W50/W60) には、土の 2 本の線が 1 つにまとめられたものと、2 本の線がより合わせられた 2 種類のケーブルが付属します。上の試聴テストは、まとめられた線で行いました。念のため撚り線ケーブルに交換して、音が変わるのかをチェックしました。撚り線ケーブルの方が若干音がハッキリ聞こえるような気がします。プレーンなケーブルはパワー感がほんの少し弱いかわりに、広がり感で勝る気がします。けれどその差はごく僅かで、音はほとんど変わらないように思いました。ATH-CK90PRO2 の音を気に入りながら、今回密閉型の ATH-W10LTD や ATH-ESW9LTD を聞いてしまった結果、少しその音質が物足りなく感じるようになってきました。もちろん、絶対的にはなんの問題もない良い音なのですが、より良い音を聞くと・・・これだから音は始末が悪い。Westone W40 は ATH-CK90PRO2 を一皮むいたような鮮やかさと細かさを持っています。私の耳が ATH-CK90PRO2 に「慣れて」いるからかもしれませんが、パワフルな音楽を聞くと少し「芯が弱い（押し出しが弱い）」ようにも思いました。Westone W40 が NOBLE 4 より、少し安いのも魅力です。

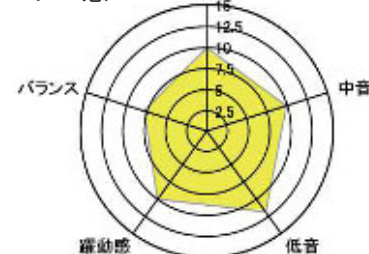
WESTONE W50 音質テスト

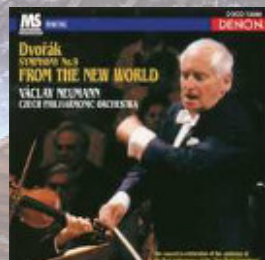


音質感



パワー感





Neumann チェコフィル “新世界 第2楽章”

W40 と音質のバランスや傾向はほとんど同じですが、音が少し細かく鮮度が高まっています。ただその差は価格ほどは大きく感じられないかも知れません。

W40 の試聴機にはプレーンなケーブル、W50 と W60 には撚り線ケーブルが標準で取り付けられていました。ケーブルのタッチノイズは撚り線の方が小さく、また柔らかく取り回しにも優れているのでケーブル同士が絡みやすいのが気

にならないのなら、撚り線ケーブルを使うのが良いと思います。

しばらく聞いていましたが、W40 との音質差はこれと言って感じられませんでした。



Grace Mahya Last Live at DUG “Root66”

W50 は W40 よりも低音が良く出そうですが、中音が少し曇って感じられます。もしかすると付属するイヤーパッドの種

類が違うのかも知れません。



B'z Pleasure “ZERO”

この曲では低音が増強されているのがよくわかります。けれどそれは明らかに無理矢理持ち上げた感覚で、バランス的には W40 が優れていましたし、高音の切れ味も W40 が良かったと思います。

総評

W40 の上級モデルと言うことで期待した W50 ですが、低音が持ち上げられた結果 W40 の特長であった中高音の見通しの良さが薄れ、バランスも崩れてしまっているように感じました。価格も W40 よりも随分高いので、このモデルはパスしたい感じです。

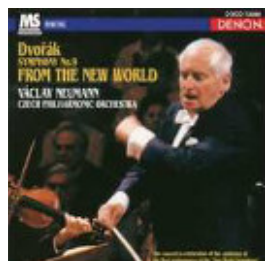
WESTONE W60 音質テスト



音質感



パワー感



Neumann チェコフィル “新世界 第2楽章”

ホールを満たす音のきめ細かさ、エコーの長さ、楽器の数が違います。これだけ音が違えば、その差はハッキリとわかります。

演奏者？観客？が立てるノイズ、咳払いが驚くほど明確に聞こえます。もちろん、それらは無理矢理持ち上げた音ではなく、あくまでも自然体。生演奏を聴いているようにきめ細かく自然な音です。クラリネットやファゴットのリードの震える感じ、フルート奏者のタギングの入れ方、弦楽器奏者の弓使い、そういう細かい部分まで見えそうなほどの音の細かさです。

W50 の音はすこし？でしたが、W60 の音は W40 の延長線上で、その質がさらに高められています。ただこれほどまで

ヘッドホンが高性能になると、組み合わせるアンプの質も問題になりそうに思います。



Grace Mahya Last Live at DUG “Root66”

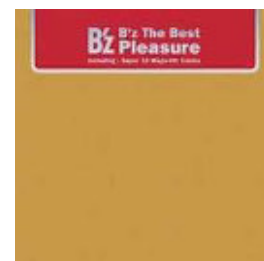
新世界を聞いても思いましたが、W60 の音は W40 をそのまま高性能化したように感じられます。

W40 で少し膨らんで聞こえたウッドベースは引き締まり、遅れもなくなりました。トランペットは綺麗に音が抜けてきます。ボーカルはもうすこしボリューム感が欲しいと思いますが、表情やニュアンスは驚くほどきめ細かく再現されます。

すべての音が細やかで情報量が増えた結果、音楽のテンポが少し遅く感じられるようになりました。

W40 ではスイングしていた音が、W60 では丁寧に置かれているように感じます。ドラムは、一音一音の変化がより明確になりました。

音調は W40 の方が明るく、W60 はしつとりと穏やかな感じがします。



B'z Pleasure “ZERO”

イントロのキーボードは、輝きを取り戻しました。ギターはぐいぐいと押してきます。ボーカルは弾けすぎず、稲葉さんらしい「知的な感じ」が

伝わり、大人の Rock として B'z が聞けます。

違和感もなく、不満も無く、あらゆる音が本当に細やかです。これは、良いヘッドホンです。

総評

10 万円を超える価格は値が張りますが、それを裏切らない高性能と自然なバランスが実現している良品だと思いました。

